

夕陽會報



巨大ツリーと赤レンガ倉庫群

第228号



◇巻頭言◇

国際的な視野と教育マインド

北海道教育大学函館校

キャンパス長 五十嵐 靖 夫

令和元年十月一日より、後藤泰宏キャンパス長の後を受け、北海道教育大学函館校のキャンパス長に就任いたしました。日頃より、夕陽会の皆様から本学へ多大なるご支援をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

昨年の九月から開学七十周年記念事業として取り組みました「キャンパス活性化リノベーション事業」において、函館校の「学生と地域をつなげる体育館」創生事業と、附属特別支援学校の「共生社会実現のための地域に開かれた学校づくり事業」に対して、多くの夕陽会会員の皆様からご寄付をいただきました。厚くお礼申し上げます。おかげさまで両事業ともに寄付目標額を達成することができました。

ご存じのように函館校は、平成二十六年に地域協働専攻と地域教育専攻から成る「国際地域学科」となり、令和二年三月には三期生が卒業し、民間企業、公務員、教員等として社会に巣立つ予定です。ふたつの専攻は、共に国際的な視野と教育マインドをもって地域から社会に貢献できる人材の養成を目指しています。地域協働専攻では、平成三十年より「HAKODATEコンシユルジュ養成プログラム」が開設されました。このプログラムでは、道南地域の観

光や教育に関し、地域に関する深い知識、地域の潜在的な魅力を見つけ出す能力、地域の魅力を情報発信する能力を身に付け、卒業後は地域のコンシユルジュとして地域の問題やニーズにきめ細やかな対応ができる人材になることを目指しています。

地域協働専攻では主として中学校教諭免許状、地域教育専攻では小学校教諭免許状の取得ができますが、令和元年度に実施されました公立学校教員採用試験候補者選考試験の函館校の受験者は五十四名で、全学生数に占める割合の受験率は十五%となっており、過去五年間で最も低い結果となりました。こうした傾向は札幌校、釧路校、岩見沢校も同様であり、北海道教育大学全体として教職意欲の向上を促す取り組みを検討しています。その中のひとつとして、海外教育体験の拡充のため、途上国における海外教育体験プログラムを開発中であり、ラオスでの海外教育体験の授業が実施されています。

このように国際的な視野と教育マインドをもって地域から社会に貢献できる人材の養成を目指す函館校の取り組みは、他キャンパスの教員養成課程の充実に資するものであると考えています。函館校の教育につきまして、今後も夕陽会の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

栄誉に輝く同窓



○文部科学大臣表彰（教育者表彰）

多くの皆様にそして夕陽会に感謝

伊達市 新沼 潔

（昭和59年卒 登別市立緑陽中学校長）

この度、令和元年度文部科学大臣表彰（教育者表彰）の栄に浴することとなりました。身に余る光栄であり、非常に恐縮しているところでございます。受賞に際しては藤川会長様をはじめ多くの皆様にお祝いのお言葉をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

この度の受賞は北海道中学校長会長として会を代表しての受賞であると考えております。授賞式は一月二十八日に東京の日本消防会館で、表彰状を拝受し、その後皇居にて天皇皇后両陛下に拝謁するという得難い経験もさせていただきました。新学習指導要領やGIGAスクールネットへの準備や学校の働き方改革などたくさんの課題解決のために日々奮闘されている全道五七一名の北海道中学校長会会員の皆様のおかげであると、重ねて深く感謝申し上げます。

私の在籍する胆振ではこれまで管内校長会をはじめ様々な場面で夕陽会の先輩方がその中心となってくれ、引続いていただきました。その流



○北海道教育功績者表彰

同窓の皆様の支えに感謝

江差町 塩崎 弘明

（昭和59年卒 江差町立江差中学校長）

この度、令和元年度北海道教育功績者の栄に浴することとなりました。私のような浅学非才のものにとりましては身に余る光栄であります。全道、道南、檜山地区において輝かしい功績を残されている教育関係者の皆様、諸先輩が多くいらしゃる中、私が受賞させていただくことに、唯々驚き、戸惑うと共に大変恐縮しているところであります。

今回の受賞に際しまして、藤川会長様をはじめ、同窓の皆様方から心温まるお祝いの言葉をいただきました。また、十二月の表彰式前日には、藤川会長様、夕陽会指導主事等会の皆様と懇談する機会を賜りましたことに紙面を借りて衷心よりお礼申し上げます。あらためて同窓の絆を実感すると共に多くの皆様に支えられ今日があることに感激しています。

表彰式当日は、厳粛な雰囲気の中北海道教育委員会教育長佐藤嘉大様より表彰を賜りました。表彰式前には同窓の鈴木淳教育指導監様から労いのお言葉をかけていただきました。

私は、大学卒業の年から出身の檜山管内にて教員の任につき現在まで三十六年間、檜山一筋で勤務して参りました。そしてこの間、夕陽会の諸先輩から一般教員時代は教員とし

てのイロハを、管理職になってからは学校経営のイロハを教えていただきました。これまでを振り返るといつも夕陽の先輩に学びをいただいた自分に気づきます。

私は、現在江差町立江差中学校に勤務しています。江差の歴史と文化に包まれ育った生徒たちは、地域の一員としての自覚を醸成させながら学校生活を送っています。幸いにもまだ職を退くまで一年が残されていますので、自校の生徒、管内の生徒の健全な成長のために自分に与えられた役割の中でこれまでにいただいた学びを生かしていくことが恩返しと思っています。

結びになりますが、夕陽会の今後益々のご発展と会員の皆様のご活躍とご多幸を祈念し、感謝とお礼のご挨拶といたします。

大会全国追分江差
参加者アクションアトラクショ





○毎日書道展会員賞（近代詩文書部門）
○函館市立教職員表彰

同窓の皆様へ感謝して

函館市 磯波理恵（水鈴）
（平成14年卒 函館市立赤川中学校教諭）

この度、令和元年度函館市立学校教職員表彰の栄に浴することとなりました。本当に身に余る光栄です。

受賞に際しましては、藤川会長様をはじめ、同窓の皆様方から心温まるお祝いや励ましの言葉をいただきました。また、一月の表彰式では、厳肅な雰囲気の中、函館市教育長辻俊行様より表彰を賜りました。頂戴したお言葉の中で、『稽古』とは、古（いにしえ）を稽（かんが）えるということ』という内容に触れてくださり、改めてこの言葉について思い出しました。

「稽古とは一より習い十を知り十よりかへるものとの一」これは千利休の言葉で、書の師匠から教わりました。どんな世界であれ、達人と呼ばれる人達は日々の修練を怠らない。繰り返し行い身についたものは、やがて無意識のうちにできるようになるが、真の達人は何かが身につく度、新たな学びを発見する。そうやって、一を十にした後は、再び一から学びが始まる、ということ。私は高校一年生から書を学び、現在も稽古が続いています。稽古や学びにこれでもいい、という終わりはな



く、練習を重ねれば重ねるほど、自分の無知や未熟さを思い知らされます。私は現代の書を創作する立場の人間ですが、同時に古い時代の書を勉強し、これを継承し伝え、努力して身につけることが、これからの課題であると考えています。

振り返りますと、留萌管内天売島が教員生活のスタートでした。遠く離れた島にいる時も、函館に帰ってからも、大学時代から変わらずご指導してくださったのは、夕陽の先輩をはじめとする皆様方でした。今後ともそのご厚情に應えるべく、精進してまいりたいと思っております。結びに、夕陽会の今後益々のご発展と会員の皆様のご多幸を祈念し、感謝とお礼のご挨拶といたします。

受賞（章）おめでとうございます

＊瑞宝双光章（高齢者叙勲5/1）
太田 茂 氏 昭31年Ⅱ卒

函館市桔梗三の二七の二六

＊瑞宝小綬章（春の叙勲5/21）
石岡 博心 氏 昭36年Ⅰ卒

函館市美原二の二六の九

＊瑞宝双光章（春の叙勲5/21）
守山 和男 氏 昭34年Ⅰ卒

札幌市白石区菊水一の四の六の三八の七〇六

＊瑞宝双光章（高齢者叙勲16/1）
今野 文夫 氏 昭27年Ⅱ卒

森町字森川町一八六の一五

＊文部科学大臣表彰・生涯スポーツ功労賞（Ⅸ/1）
岡部 壽一 氏 昭40年Ⅰ卒

北斗市久根別四の四の一〇

＊函館市青少年活動賞（Ⅲ/1）
丸山 四郎 氏 昭28年Ⅱ卒

函館市日吉町一の六の一九

＊瑞宝双光章（高齢者叙勲16/1）
廣川 和夫 氏 昭32年Ⅰ卒

函館市五稜郭町二の四

＊瑞宝双光章（秋の叙勲11/3）
櫻庭 辰弥 氏 昭32年Ⅱ卒

北斗市東浜二の四の一〇

＊瑞宝双光章（秋の叙勲11/3）
繪面 和子 氏 昭39年Ⅰ卒

函館市榎本町六の二〇

＊瑞宝双光章（秋の叙勲11/3）
山田 律子 氏 昭41年Ⅰ卒

千歳市信濃四の一四の二

＊瑞宝双光章（高齢者叙勲15/1）
高土井一義 氏 昭27年Ⅱ卒

函館市桔梗町四三五の四四〇

＊瑞宝双光章（高齢者叙勲15/1）
斉藤 忠志 氏 昭31年Ⅱ卒

北斗市市渡七四九の二

＊文部科学大臣優秀教員表彰（1/14）
鈴木 美保 氏 平7年卒

帯広市立豊成小学校教諭

＊文部科学大臣優秀教員表彰（1/14）
田崎 博久 氏 平10年卒

釧路市立昭和小学校主幹教諭

＊函館音楽協会賞（1/20）
大村 義美 氏 昭44年卒

函館市富岡町三の二の三

＊函館音楽協会奨励賞（1/20）
金木 彩子 氏 平6年卒

北海道函館聾学校

＊瑞宝双光章（高齢者叙勲2/1）
円山 博司 氏 昭29年Ⅱ卒

函館市花園町二の四二の九

＊瑞宝双光章（高齢者叙勲2/1）
村岡 達司 氏 昭30年Ⅰ卒

七飯町鳴川二の一五の五

＊就任おめでとうございます

＊豊浦町教育長再任（Ⅸ/1）
野橋 知哉 氏 昭59年卒

＊浦臼町教育長就任（Ⅸ/3）
河本 浩昭 氏 昭60年卒

＊福島町教育長就任（Ⅹ/21）
小野寺則之 氏 平3年卒



網走連合支部だより

網走連合支部長 佐藤 和俊

(昭和59年卒 北見市立東小学校長)

令和元年十一月に、網走連合支部の主幹で「夕陽会道東ブロック会議」が行われました。道東ブロックは、網走連合・釧路・根室・帯広十勝巴湾会の四支部で構成され、今年のブロック会議は北見市で開催しました。今回は、北見らしい研修内容ということで、特産の玉ねぎを集出荷する日本一の巨大施設見学と、カーリング体験研修を行いました。お土産はもちろん「赤いサイロ」です。懇親会も盛り上がりしました。今回は藤川本部会長もお越しいただき、楽しい時間を過ごしました。

定例行事としての総会は、一月の極寒期に温泉宿泊で行います。併せて冬季の研修会も開催します。七月には夏季研修会と歓迎会を実施します。年に二回の研修会では、毎回若手会員の実践発表が行われ、それをもとに一般・管理職問わず熱い議論が交わされます。

当支部の活動は、他の支部と同様に昭和十一年頃、全道十八支部体制の一つとして始まったようです。当時の会員数は百十九名。最初は「網走支部」の名称でしたが、昭和三十一年に「網走連合支部」として発足。会員数は百六十五名だったようです。(夕陽会網走連合支部八十年記念誌「朔風」より)

すが、現在は、北見・網走・遠軽・紋別の四支部で連合支部が構成されています。

網走支庁が平成二十二年に「オホーツク振興局」となり、それに合わせて多くの団体が「オホーツク」の名称に改めましたが、当時の網走連合支部の先輩諸氏は、「オホーツク」は馴染まない。やはり「網走」だろう。ということことで改名せず、現在に至っています。

現在の現役会員は九十七名、うち管理職は十一名です。OB会員は三十名で、会の活動に協力いただいています。御多分に洩れず、活動に関わる現職会員の人数は限られており、減少傾向にあります。

私は平成九年に函館から故郷のオホーツクに戻りましたが、当時は先方にとり合ひがいませんでした。そんな中、夕陽の集まりにお誘いいただき、そこには自分の居場所があったように思いました。夕陽は、函館という魅力的な共通項を通して、人とのつながりが広がる、深まる場です。どんな職にあっても、こんなに心強いことはないと思います。夕陽会のよさを多くの会員に感じてもらえるよう、オホーツクの地でも、さらに活動の輪を広げていきたいと思っています。



帯広十勝支部だより

帯広十勝支部長 中村 真也

(昭和59年卒 豊頃町立豊頃小学校長)

今年度前半のNHK連続ドラマ「なつぞら」の舞台となったのが私たちの支部、十勝でした。私も毎日番組を録画して視聴しました。「なつぞら」のおかげで、全道・全国規模の研究会等ではこの話題をきっかけに会話が弾みました。中でも、豊頃町と姉妹都市提携を結んでいる富山県滑川市への訪問の際、児童が滑川市歌を元気に斉唱したことに感激した滑川市長が、「なつぞら」の中で歌われた「農業高校の歌(F.F.J)」を独唱してくださったことが大変印象に残っています。そのような帯広・十勝の様子について紹介します。

帯広・十勝支部は十勝管内全十九市町村で活躍する約百四十名の現役会員と七十六名のOB会員で構成されています。とは言っても現在会員がいない町村もあり、他の支部と同様、会員数の減少が大きな課題の一つになっています。また、教職員以外の立場で、管内で頑張っている同窓の仲間への声かけなどへも力を注いでいかなければならないと考えています。

(平成二十三年、夕陽会帯広支部と十勝支部巴湾会が合併してから九年が経過しました。合併した頃は、管理職会員の皆様を中心に会を支えて

いただきましたが、その管理職会員も定年退職等で年々減少し、寂しくなってきました。しかし、先輩の皆様は、会が順調に運営できるように若手会員の会への参画にご尽力いただき、今では頼もしく成長した三・四十代教員が中心となって積極的な会の運営に貢献してくれています。彼らが最も輝くのは懇親会の場です。進行はもちろん、ゲームやクイズなどのアトラクションを担当します。研究会や旅行で函館に出かける時は、クイズのネタや景品探しに忙しいようです。

このように、若い会員の活動参加のきっかけになっているのが毎年一月に行われる新春研修会です。日々頑張っている若い会員に実践発表を依頼しています。発表者は研修会後の懇親会に無料招待します。私たちの支部では若い会員への助成を手厚くし、参加促進を図っているのですが、懐事情は厳しいのですが、若い会員に少しでも活動への参加意欲をもつてほしいという願いで取組を進めています。今後は、若い世代が本会を牽引し、教職員以外の仲間も含めた帯広・十勝支部の活動をこれまで以上に活性化していくことを願っています。



夕陽会の歴史

後志夕陽会創立百周年

後志夕陽会幹事長 齊藤 信之

(昭和60年卒 岩内町立岩内東小学校長)

令和二年一月十八日(土) 倶知安町ホテル第一会館において、令和元年度後志夕陽会勇退者感謝の会並びに後志夕陽会創立百周年記念大懇親会を開催いたしました。

本年度をもってご勇退される四名の皆様のご功績やご労苦を称え感謝するとともに創立百周年をみんなで祝うべく、藤川本部長様をはじめ、ご来賓や多くの先輩のご臨席を賜り、盛会裏に終えることができました。

一 後志夕陽会のあけぼの

大正七年、四名の大先輩が函館師範学校第一期卒業生として後志に赴任したところから始まります。

七月の創立は、驚くことに本部夕陽会が立ち上がる二カ月前のことです。教育への熱い思いと大きな使命感に突き動かされてのことであつたらうと拝察されます。

本会を創立された四名の大先輩とその後、百年という年月を脈々とつなぎ、伝統を積み上げてこられた多くの先輩の皆様に変更して深く敬意を

表するとともに、自分もその一員であることに喜びと誇りを感じるところです。

二 百周年行事として

数年前から役員会では「創立百周年」との言葉が聞かれていましたが、本格的に検討に入つたのは昨年度からでした。結果、周年行事として執り行うことを決定したのは、次の三点です。

- ①「創立百周年記念誌」の発刊
- ②「百周年記念特別講演会」の開催
- ③「勇退者感謝の会・創立百周年記念大懇親会」の開催

本年度から幹事長を拝命した私にとって、一人でも多くの先輩と現会員を巻き込み、これらを滞りなく進めることが最大の使命でした。不安もありましたが、楯本会長や先輩各位からのご助言や他の役員の皆さんからお力添えをいただき、一つ一つ取り進めていくことができました。同窓の絆の力で支えていただいたことに心から感謝しています。

① 創立百周年記念誌「追懐」発刊



記念誌「追懐」

一人でも多くの方からご寄稿いただけることを願いつつも、果たしてどれほどの原稿が集まるものかとの不安は拭えませんでした。ですが、続々と玉稿が寄せられ、これらは杞憂に終わりました。

写真がなく、見た目の華やかさには欠けるかもしれませんが、一人一人の思いの詰まった後志夕陽会らしい一冊に仕上がったと思っています。編集には、それなりの時間を要しましたが、それもまた、それぞれの思い出や夕陽会への特別な思いに触れることのできた素敵な時間となりました。

② 特別講演会の開催

令和元年十二月十四日(土)、藤川本部長様を講師にお迎えし、後志夕陽会創立百周年記念特別講演会を開催しました。

ウィットに富んだ温かな中にも含蓄あるお話に、会場の全員が時間を忘れてすっかりと聞き入りました。子どもを育てる大人として、教育者

としてどう生きるかを考え直した貴重な機会となりました。

ご講演される
藤川隆会長様

③ 「勇退者感謝の会・創立百周年記念大懇親会」の開催

令和二年一月十八日(土)、倶知安町ホテル第一会館において、多くの先輩のご臨席を賜り、年代を超えた仲間が集い、盛大に開催することができました。



大賑わいの百周年記念大懇親会

三 終わりに

本会を創立された四名の大先輩の高い志を受け継ぎ、これからも「創造し行動する夕陽会」として、仲間との絆を大切に歩み続けてまいります。

夕陽会の 新しい歴史を築く(2) 会社員・公務員部会の発足

令和元年度の本部総会において報告されたように、三坂亮司氏（平成8年卒・八雲町教委委員）を部会長として、「会社員・公務員部会（会公部会）」が発足しました。現在は、道南地区の会員を中心とした部会ですが、今後は全道、全国的な組織へと拡充が図られることが期待されます。

会公部会

第一回懇親会に出席して



佐藤 優哉

（平成24年卒
北斗市経済部農林課）

私が函館校に入学しようと考えたのは、中学時代に友達に英語を教えることが好きで、将来教員になろうと思ったことがきっかけでした。しかし、いざ入学してみると、なかなか思うように自分のスキルが向上せず、次第に教員になる夢から遠ざかっていきました。そんな中、教員のように社会から必要とされる職業に就きたいと考え、公務員になろうと決意しました。

そもそも、私が在学していたころは教員養成課程が廃止されていて、教員志望者よりも民間・公務員志望者が多く、周りの友人も大半が後者を目指して勉学に励んでいました。

ただ、教員の夢をあきらめても、教育現場で働きたいという思いは残っていたため、市役所の採用面接時には、「教育行政に携わりたい」と訴えていたことを記憶しています。卒業後は、希望どおり北斗市役所に就職することとなり、面接時に切望した結果か、教育委員会に配属されることになりました。

教育委員会では、生涯学習の仕事を担当し、文化センターの運営、文化活動、高齢者大学、成人式、体育振興等、多岐にわたり地域の方と触れ合う機会がありました。学校教育とは違うものの、文化活動を通して地域の小学校、中学校と密接につながっており、学校の先生たちとも交流する場が多かったです。先生たちと児童・生徒が楽しそうに触れ合う姿を見て、やはり教員の道もよかったなと思うことも多々ありました。

北斗市役所には現在十五名の同窓会があり、年に一回「北斗市役所OB会」を開催しています。しかし、それ以外では、他市町との交流や教員

を含めた同窓との交流はありませんでした。

そんな中、

平成二十九年に藤川会長から私の同期の代表である小西貴裕君に、

「会社員や

公務員の同窓も、夕陽会に積極的に加わってほしい。」との話があり、

それに向けた情報交換会として藤川会長、繪面副会長、小西君、私の四人で集まる機会がありました。私は、その会合が開かれるまでは全くと言っていいほど夕陽会については知らず、全国・全道の多くの同窓が懇親会や研修会を開催したり、母校を支援したりしていることを聞いて、正直驚かされました。

その後、平成三十年の冬に、会社員・公務員部会の発足に向けての意見交換会が開かれ、会社員等が十名程度集まって今後に向けた話し合いをしました。

そして、ついに令和元年十月十八日、第一回夕陽会「会社員・公務員



部会」懇親会をホテル函館ロイヤルで開催することとなりました。始まってすぐは、皆初めてということもあって緊張気味でしたが、同窓の仲間ということもあり、次第に学生時代の話や社会人になってからの経験談などに花を咲かせ、世代の壁を越えた交流となっていました。

同会には北斗市役所からも七名参加しましたが、日ごろ行政関係者として接することがない部署も多く、異業種の同窓の話が新鮮で、とてもインパクトを受けた様子でした。また、参加者一人一人のユーモアあふれる近況報告で、会場全体が明るく笑い声でいっぱいになりました。

今回の会公部会の懇親会の開催は、藤川会長や三坂部会長をはじめ、同期の小西君らの働きかけにより、「いつか実現させよう」から始まり、二年という短期間で現実のものとなりました。関係者の皆様のご尽力に感謝したいと思います。

今後、この素晴らしい会公部会のつながりを広げ続け、ゆくゆくは夕陽会が、「教員・会社員・公務員同窓会」として一層発展する日が来ることを信じ、私も微力ながらお手伝いさせていただきたいと考えております。

各界で活躍する若手会員



地域の発展と企業の懸け橋に

西村 百代

(平成27年卒 津軽海峡フェリー株式会社 管理部総務チーム)

平成二十七年に北海道教育大学函館校を卒業しました。現在は津軽海峡フェリー株式会社に勤務しており、四月で入社六年目となります。

最初に勤務した青森では、二年間ターミナルでの接客業務に従事していました。二〇一六年に北海道新幹線が開業し、北海道・本州間の移動の利便性が高まったことで国内旅行客のフェリー需要が増えたこと、またアジア圏と青森を結ぶチャーター便が運航をはじめ、インバウンド団体の利用が増加したことなどが印象に残っています。GWやお盆の多客期はとにかく忙しく、目の回るような毎日でしたが、重要な公共交通の一端を担っていると思うと、大きな達成感とやりがいを感じました。

三年目に現在の部署に異動となり、現在は採用担当として、会社説明会の開催や大学関係者との連絡、選考中から内定、入社後のサポートまでを一貫して行なっています。就職という人生の重大な決断に関わる仕事だからこそプレッシャーもあります。入社した新入社員が奮闘し成長していく姿はとても嬉しく活力になっています。私たち採用担当者の姿をみて入社を決めたと言ってもらえた時は、本当にこの仕事をしてい

て良かったと思う瞬間です。一方で、厚生労働省の調査では入社三年以内の離職率が三〇%を超えており、多くの企業が若手社員の定着に頭を悩ませています。入社後のミスマッチがないよう、就職活動時期の丁寧な関わりと、信頼関係を築くなかで企業理解を深めてもらうことが重要だと考えています。当社を選んでくれた新入社員が、やりがいを感じながら安心して働けるよう、今後も全力でサポートをしていきたいと思っています。

津軽海峡フェリーでは、今年六月に新造船「ブルー・ミナス」が就航します。「輝く・明るい」の意味に由来した船名は、穏やかで光り輝く海、晴天での気持ちのいい船旅をコンセプトに付けられました。オリンピック開催もあり日本中が盛り上がる二〇二〇年は、沢山のお客様に利用して頂き、快適な船旅を提供できるよう、これからも職員一丸となつてフェリーを運航してまいります。

ぜひ皆様も遊びにいらしてください。最後にありますが、このような寄稿の機会をくださった関係者の皆様に感謝いたします。「各界で活躍する若手会員」のタイトルに恥じないよう、今後も皆様にご指導頂きながら、元氣いっぱい邁進してまいります。



私にもできること

五十嵐 柚季

(平成31年卒 札幌市立豊園小学校)

大学を卒業して、間もなく一年が経とうとしています。大学四年間はあつという間だったと感じています。が、社会人一年目はそれ以上に速く、瞬間に毎日が過ぎていきます。

私は現在、特別支援学級の教師として、札幌市の小学校に勤めています。とても環境に恵まれ、周りの先生方や子どもたち、保護者の皆様に助けられながら楽しい毎日を送っています。しかし、自分の指導力不足を日々痛感し、後悔や悩みは尽きません。「この子どもたちにとって必要なものは何か」や「何をどう指導していけばこの子どもたちのためになるのか」、「どう声をかけたら伝わるのか」等様々なことを考え、実践しては反省し、後悔して悩む毎日です。

「周りの先生方はこんなにも効率的かつ的確に子どもたちに指導をして、子どもたちと楽しく過ごしているのに……」と自分のできなさ加減に悲しくなることも多くありました。自分

は教員になって良かったのだろうか、少しでも誰かのためになつてい

るのだろうか何事も悲観的に考え

てしまうようになっていました。

そんなある日、高等支援学校の先生のお話を聞く機会がありました。「小・中学校の先生に求めることはありますか」という質問に対して、高等支援学校の先生は「たっぷりの

教育的愛情を子どもたちに注いでほしい」と答えていました。その回答を聞いた際に、「それなら私にもできる!」と強く思いました。授業力や指導力は、他の先生方には到底追いつけないし、経験を積むことで成長できる部分だと思いますが、愛情を注ぐことは今の私にもできることだし、していることだと思いました。他の先生方に負けないものを見つけられたと、とても嬉しく思いました。「愛情を注ぐ」なんて当たり前のことかもしれないけれど、ものすごく大切なことで、意外と難しいことだとも感じています。私の注ぎ方が全て正しいかは分かりませんが、他の先生方からアドバイスをもらいながら、これからは私なりの教育的愛情を子どもたちに注いでいきたいと思っています。

この一年間で、自分のできないことばかりを見て悲観的な感情になつていても何も生まれないこと。逆に自分にもできること、自分だからこそできることが必ずあることを改めて感じました。これからは先生方や子どもたち、保護者の皆様に助けてもらいながら、自分だからこそできることを増やせるように、指導力や授業力を高められるように、努力し続けていきたいと思っています。

母校の学生たちの学び

平成二十六年四月に、母校は国際的な視野と教育的マインドを持つ地域振興を担う人材を養成することを目的とした「国際・地域学科」に再編されました。新学科で学生たちは何を学び、どのような力を身に付けているのでしょうか。二月二日に開催された「地域プロジェクト成果発表会」を参観し、学生たちの学びの様子取材してきました。

地域プロジェクトとは

地域で活躍する上で必要な実践的課題解決能力を養うため、二・三年生の必修科目として設けられています。学生たちは、平均六・七名のチームを組み、地域の課題を解決するための方策や企画を、一年間、フィールドワークなどを通して考え、実践しています。地域で求められる生きた学びを実現すること、学生主体のチームワークを原動力とすることが、地域プロジェクトの大きな特徴になっています。

令和元年度の地域プロジェクト

本年度は、学生たちが課題設定した四十五のプロジェクトがあり、「道南の中小企業での外国人雇用を促進するプロジェクト」や「観光用やさしい日本語展示物作成プロジェクト」「キャンパス内におけるキツ

ネとの共生の試みと景観向上」など、そのテーマは多岐にわたっています。紙面の関係で二つのプロジェクトの取組の紹介になりますが、大学のホームページで全プロジェクトの内容と成果をご覧いただけます。

地域における音環境の調査と提案

地域環境科学グループ

〈目的〉○函館特有の「音」を資源としてとらえ、観光客に、今までとは違う視点である「音」で函館の魅力をさらに感じてもらう。○函館を離れた若者に、日常何気なく聞いていた函館の「音」を懐かしんでもらい、将来的に函館に戻りたいと感じてもらおう。

〈主な活動内容〉○函館の魅力を感じてもらえる音を収集する。○収集した音をサウンドマップとしてまとめ、観光施設などに配布を依頼する。

○ウェブサイトやインスタグラムで、サウンドマップについて発信する。

プロジェクトの取組を説明してくれた嶋田さん（釧路出身の三年生）は、マップの配布をお願いに行った施設の方から、「函館の魅力を発信す



る素晴らしいものを作ってくれてありがたい。ぜひ多くの人に配布したい。」と言っていたのだと、うれしそうに話していました。その笑顔に、「夕陽会の全国にある支部にも、サウンドマップを紹介するね。」と応えてきました。イカ売りの声や、ゴミ収集車の音楽などを加えるようにとの四年生からの助言もあり、サウンドマップを今後も充実させていきたいと熱く語っていました。



ミャンマー国基礎教育支援プロジェクト

〈目的〉○現地で活動する国際協力団体の基礎教育普及プロジェクトの活動に触れ、その内容を理解する。

○現地の学校を訪問し、ミャンマーの教育の実態を理解するとともに、開発途上国への教育支援の在り方を考察する。

〈主な活動内容〉○ミャンマーの歴史や文化、現状などについて事前に調査・学習する。○ミャンマーで暮らしていた方から、子供たちや日常生活の様子を聞く。○ミャンマーを訪問し、大学や小学校を視察する。

プロジェクトの一員である新井さん（札幌出身の三年生）は、安全な飲料水の確保が難しかったり、まだ狂犬病の危険性があったりする国の状況の中でも、日本などの制度を取り入れながら、未来の母国を担う子供たちの教育の充実に国全体で取り組んでいることが理解できたと話していました。訪問した小学校の算数の授業の様子を説明してくれた上出さん（札幌出身の三年生）は、子供たちが自ら発言したり、活発にグループ討議を行ったりするなど、意欲的に学ぶ姿にとっても感動したそうです。そして、よりよい教育を行うためには教員の資質能力の向上が必要不可欠であること、学力の向上を図るためには個に応じた指導を工夫することの大切さを改めて考えさせられたと語っていました。



どのプロジェクトも、学生がチームワークを原動力として、地域にかかわる様々な課題の解決に向けて主体的な学びを深めていると強く感じました。このような学生の学びを、夕陽会が人的・物的に支援することもできるのではないのでしょうか。

（文責：情宣部 坂井 顕也）

夕陽会本部事務局・附属四校園紹介(1)

北海道教育大学附属函館幼稚園



北海道教育大学附属函館幼稚園で

ございます。このたびは夕陽会報に

て本園をご紹介させていただく機会をいただき、誠に感謝申し上げます。

本園教職員は、常勤・非常勤を含め十二名です。夕陽会員は一名ですが、夕陽会に対し親和的であり、夕陽会を陰ながら支えてもらっております。

本園は、めざす子供像として、「い

きいきと活動する子」を掲げ、

○ 元気にあそぶ子

○ よく考える子

○ のびのびと表現する子

○ 友達を思える子

○ すすんでやろうとする子の

の五点を具体目標として保育を進めています。

また、先端的な幼児教育として、アンブラグド・プログラミング教育の他、ロボットやタブレットを活用したプログラミング的思考の育成の基礎作りを行ったり、社会情動的スキル育成等の検証や発信等を全国に先駆けて行ったりしています。さらに、地域や保護者のニーズに沿ったあずかり保育等の実践を国立附属幼稚園に先駆けて実践してまいりました。

北海道国公立幼稚園・こども園研究会

第三ブロック研究大会

令和元年七月二十五日(木)～二

十六日(金)の両日、北海道国公立

幼稚園・こども園研究会第三ブロッ

ク研究大会が道南を舞台に行われ、

本園も保育公開園として、全道から

百三十名以上の方にご参加いただき

ました。研究大会の中では、昨年度

より施行されております新幼稚園教

育要領に基づいた保育環境や保育方

法、それにかかわるカリキュラムや

指導案について見ていただき高い評

価をいただきました。

また、本園は保育を公開するとと

もに、研究担当園として、他の公開

園等への指導・助言を行い「幼児期

の終わりまでに育てたい姿」の定着

を図るとともに、道南の保育水準向



上のための一翼をなしております。

社会情動的スキルの育成

本園の研究主題の「幼児の「見方・

考え方」を培う遊びのプロセスの創

造」を「ごっこ遊びを通して、ふれあ

い、よりよい、育てる幼児教育の具

現化をめざしています。それによつ

て「幼児期の終わりまでに育ってほ

しい姿」の育成を図っております。

「ごっこ遊び」を充実させる取り組

みにより、子供たちの主体性が高

まってきており、友達との喜びを体

験することができます。また、遊び

の中で「役」になりきることで想像

力を発揮し、遊びで使うもの等を

色々試してから作るようになってい

き「感性と表現」や「創造性」が少

ずつ高まってきました。

そのような子供の見取りを行うた

めに、こども変容シートや週案を活

用して保育活動の見える化を図って

います。保育メモやホワイトボード、

保育ミーティングを通して、個別の

情報などを全教員が共有し、日々の

保育メモや指導案等に生かし、より

よい保育

の改善を

図りなが

ら実践し

ています。



幼小中特別支援学校等との連携

本園を含めた附属四校園では、ち

びっこ祭りや給食体験、ふれあい交

流、音楽交流などの行事を通しての

ふれあいを重視しています。

また、連携研究成果としまして幼

小中が同じフォーマットで作成した

「幼小中連携の情報処理能力カリ

キュラム」や造形・音楽・運動など

の観点に「幼児期の終わりまでに育

てたい姿」を数字にして、四期にま

とめた「幼小連携カリキュラム」な

どの研究成果はホームページに公開

しています。



本園は園歌の歌詞にもある

「♪あかいおやねのようちえん♪」

として昭和四十五年に開園し、今年

度で五十周年を迎えました。多くの

卒園生や保護者・地域・関係機関、

そして夕陽関係者の皆様に支えられ

てきたおかげです。今後ともご支援

のほどよろしくお願い申し上げます。

(文責…副園長 藤谷 毅)



北海道教育大学附属函館小学校

夕陽会本部事務局を仰せつかつて
おります附属函館小学校です。
夕陽会報にて本校紹介の紙面を頂
戴できましたことを職員一同、心よ
り喜んでおります。

本校教職員は、調理員や守衛を含
め総勢三十四名です。そのうち夕陽
会員は、十八名です（非常勤講師含
む）。道内外の他大学出身者も増え
ていますが、出身大学の枠を越えた
「ワンチーム」であることが本校の
強みです。

大学の附属小学校ですので、「先導
的な研究」「大学研究の実践検証」「地
域の学校・教育への貢献」「教育実習」
等、課せられた使命を完遂すべく努
力しております。中でも、近年は
「地域の学校・教育への貢献」が強
く叫ばれており、附属学校の存在意
義向上が求められております。

「地域の学校と絆を深く
共に教育の向上を目指す」

- 研究交流校制度
- 研究会・研修会等への協力・共催
- 本校教育研究大会の開催
- 講演会や子育て学習会等の開催

本年度は、管内外十一校と研究交
流校提携を結び、相互に授業参観や
研究協議への参加等を中心に研究に
よる交流を進めております。

また、教科等研究会や教員研修会
への授業提供等とはより、北海道
教育委員会との連携によるセミナー
等も開催させていただいたところで
す。
令和元年七月二十六日（金）には
道内外から三百二十名を越える参会

本校スタッフ （校長と常勤教員十八名）



「附属四校園・大学・教職大学院」連携 教育実践研修センターの推進



者を得まして、「子供が学びをつくる
学校」を研究主題に掲げ、本校教育
研究大会を開催いたしました。開催
にあたり、渡島管内の教育を先導さ
れておられる校長先生方をはじめ、
諸先生方から多くのご指導・ご助言
をいただき、今後の研究推進に貴重
なご示唆を賜りました。あらためて
心よりお礼申し上げます。

本校は、皆様にご活用いただいで
こそ、存在意義を見出せる学校です。
研究交流や各種研究会等はもちろん、
出前授業や授業づくり、教科等の相
談にも随時応じております。皆様の
研究の場に出向き、共に考え、学び
合い、改善の方途を提案・提供させ
ていただきます。本校教員もチーム
の一員となつて一所懸命に取り組ん
で参りますので、どうぞご活用くだ
さい。

の連携を強め、「教育実践研修セン
ター」の一翼を担おうとしています。
研究交流等にも大学や教職大学院の
専門的な知見を組み入れ、より充実
したものを提供すべく改善を図って
参ります。また、国際地域学科の視
点からの授業構築や、地域とのつな
がりもより一層深める計画です。今
後のセンター機能の発揮にもご期待
ください。

夕陽会本部電話〇一三八―三四―
五五二〇にお電話いただきますと、
本校夕陽会事務局が拝聴いたしま
す。名簿の変更や配布物のこと、叙
勲のお喜び、悲しみの訃報、お叱り
や辛い等々。時に、ご不満に思われ
ることもあろうかと存じますが、私
共は「会員の皆様に寄り添う本部事
務局」を合い言葉に、敬意と誠意を
もって取り組んでおります。どうか
引き続き、本会業務推進へのご理解
とご支援をよろしく願ひいたしま
す。私は（文責：副校長 五十嵐 義幸）



令和元年度 夕陽会研修助成先一覧

(R2. 2. 5現在)

- 1 夕陽会札幌支部第3回教師力UPセミナー
- 2 夕陽会札幌支部会員研修会(ミドルリーダー対象)
- 3 第63回全国特別活動研究協議大会北海道函館大会
- 4 第58回北海道理科教育研究大会函館大会
- 5 第63回渡島複式教育研究大会七飯大会
- 6 夕陽会空知支部教育講演会
- 7 八雲町立熊石小学校公開研究会
- 8 第60回北海道進路指導研究大会函館・渡島大会
- 9 第66回北海道小学校理科教育研究大会函館大会
- 10 夕陽会小樽支部夏季研修会
- 11 夕陽会石狩支部ふれ合いトーク(若手枠)
- 12 夕陽会小樽支部若者の集い(若手枠)
- 13 夕陽会特別支援学校支部20周年記念研修会
- 14 夕陽会小樽支部冬季研修会
- 15 胆振夕陽会 学校経営セミナー
- 16 令和元年度北海道教育大学附属函館中学校研究大会
- 17 令和元年度夕陽会留萌支部研修会

(研修部長 函館市立万年橋小学校 吉田 敬三)

12 / 18	12 / 14	12 / 10	11 / 16	11 / 9	11 / 2	10 / 31	10 / 21	10 / 18	10 / 5	10 / 2	9 / 14	8 / 24	<div data-bbox="1220 1176 1364 1377"></div> <div data-bbox="1372 1198 1452 1568"> <h2>会務報告</h2> <p>幹事長 白川 卓 (平成5年卒)</p> </div>	
道教育功績者表彰を祝う会 に藤川会長が出席する (札幌市)	後志夕陽会教育講演会講師 として藤川会長が出席する (倶知安町)	大学と五校同窓会長懇談会 に藤川会長が出席する (函館市)	函館渡島北師同窓会懇親会 に藤川会長が出席する (函館市)	六稜会渡島函館檜山会に藤 川会長が出席する(函館市)	道東ブロック会議に藤川会 長が出席する(北見市)	第1回本部役員会を附属小 で開催する(函館市)	磯波水鈴先生 毎日書道展 会員賞受賞祝賀会に藤川会 長が出席する(函館市)	「会社員・公務員部会懇親会 を開催する(岩見沢市)	道央ブロック会議に藤川会 長が出席する(函館市)	第1回令和の夕陽会を考え る会を開催する(釧路市)	幹事長が出席する(釧路市)	鶴岡会渡島支部懇親会に藤 川会長が出席する(函館市)	五校同窓会長・理事長(幹 事長)会に藤川会長と白川 卓が出席する(函館市)	道教育長と五校同窓会長懇 談会に藤川会長が出席する (札幌市)
2 / 15	2 / 15	2 / 11	2 / 8	1 / 25	1 / 25	1 / 18	1 / 11	12 / 7	10 / 31	10 / 18	9 / 28	9 / 28	9 / 21	2 / 6
函館市支部会員懇親会に藤 川会長が出席する(函館市)	檜山支部総会・先輩を送る 会に藤川会長が出席する (江差町)	日高支部総会・懇親会に藤 川会長が出席する(函館市)	渡島支部勇退者感謝の会に 藤川会長が出席する(北見市)	胆振夕陽大懇親会に白川幹 事長が出席する(室蘭市)	網走連合支部総会・懇親会 に藤川会長が出席する(五所川原市)	青森西北五支部懇親会に太 田副幹事長が出席する(倶知安町)	後志夕陽会勇退者感謝の 会・創立百周年記念大懇親 会に藤川会長が出席する(札幌市)	特別支援学校支部学習会に 藤川会長が参加する(札幌市)	函館校夕陽会懇親会に藤川 会長が出席する(函館市)	「会社員・公務員部会懇親会 に藤川会長が出席する(函館市)	海峽クラブ懇親会に白川幹 事長が出席する(函館市)	指導主事等会学習会に藤川 会長が出席する(札幌市)	高等学校支部総会・懇親会 に藤川会長が出席する(札幌市)	道教育長と五校同窓会長懇 談会に藤川会長が出席する (札幌市)

夕陽会員訃報

奈良 保雄 氏 昭31Ⅱ 逝去日不明
秋田県北秋田市増沢字沼ノ上54

伊藤 良 氏 昭21 元・11・12逝去
札幌市北区新川2の8の1の8 妻 淑子氏

越田 覚 氏 昭34Ⅱ 逝去日不明
帯広市東10条南9の1の28 妻 裕子氏

村上 正規 氏 昭29Ⅱ 元・11・14逝去
森町字砂原2の154の2 妻 輝江氏

萱場 敏彦 氏 昭33Ⅰ 31・2・17逝去
室蘭市陣屋町4の18の6 妻 恵子氏

中野 末司 氏 昭40Ⅰ 元・11・15逝去
函館市昭和2の22の37 妻 悠紀子氏

館坂 良一 氏 昭33Ⅰ 31・4・23逝去
函館市深堀町39の19 妻 栄子氏

高山 見一 氏 昭30Ⅱ 元・11・15逝去
函館市亀田港町40の9 妻 孝子氏

河村 政吉 氏 昭22二師 逝去日不明
北見市寿町6の4の13 妻 純子氏

小山 昌吾 氏 昭29Ⅰ 元・11・16逝去
函館市美原4の12の16

澤野 久 氏 昭23二師 逝去日不明
札幌市西区西町北6の2の3 妻 金子氏

関坂 昭夫 氏 昭23二師 元・12・8逝去
伊達市末永町125の30 妻 長子氏

堀 久子 氏 昭27Ⅱ 元・5・27逝去
函館市本通2の11の23 長男 文幸氏

石名坂克明 氏 昭43 元・12・12逝去
函館市高丘町6の22 妻 容子氏

横井由利子 氏 昭47 元・7・20逝去
函館市美原3の58の21 夫 明氏

中村 賢 氏 昭31Ⅱ 元・12・31逝去
苫小牧市三光町2の19の19 妻 和子氏

加藤 俊一 氏 昭48 元・10・24逝去
函館市深堀町16の13 妻 加代子氏

金田 佳子 氏 昭33Ⅱ 2・1・7逝去
苫小牧市山手町2の6の4 夫 弘明氏

石川 澄明 氏 昭36Ⅰ 元・11・5逝去
函館市日吉町4の23の3 妻 征子氏

鈴木喜八郎 氏 昭30Ⅰ 2・1・20逝去
函館市高松町333の8 妻 富貴子氏

松田 明雄 氏 昭30Ⅱ 元・11・8逝去
森町上台町326の118 長男 治人氏

(令和2年2月15日現在)

令和2年度 北海道教育大学夕陽会
本部総会・大懇親会・全国支部長会議のお知らせ

◆日 時 令和2年6月27日(土)
◆会 場 ホテル函館ロイヤル
(〒040-0034 函館市大森町16番9号 ☎0138-26-8181)

- ・令和2年度 全国支部長会議 13時30分～15時30分
- ・令和2年度 総 会 16時～17時
- ・令和2年度 大 懇 親 会 17時30分～20時

編集後記

◆会報第二二八号をお届けいたしました。今回も、皆様から多くの玉稿や貴重なお写真等をお寄せいただき、心よりお礼申し上げます。

◆巻頭写真は二十二回目を迎えた「はこだてクリスマスファンタジー」に彩を添える巨大クリスマスツリーと赤レンガ倉庫群のイルミネーションです。函館の冬の風物詩・一大イベントとして定着した美しい景色をご覧ください。

◆会社員・公務員部会が発足し、初めての部会・懇親会が開かれました。組織拡充の取組が一步前進したといえます。今号では母校学生の活躍の様子をお伝えするため「地域プロジェクト成果発表会」取材し、その一部をご紹介します。

◆今号と次号で、多くの方々が教育実習でかわった附属四校園(幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校)の現在の取組を紹介いたします。懐かしさを感じつつ、先導的な実践研究にふれて頂けたら幸いです。

(情宣部長 檜野 人範 記 昭60卒)

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041-0806 函館市美原3丁目48番6号
北海道教育大学附属函館小学校内
夕陽会本部事務局
電話番号(01338)46-22235
夕陽会専用(01338)34-5520
FAX番号(01338)47-7376
e-mail:sekiyoukai34520@gmail.com

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鶴亭)氏(昭4卒)